

1 事業の成果

コロナ禍の影響が続き終息の目処が立たない中、居場所づくりや学習支援など様々な活動を「コロナとの共存」の方向に転換するため模索していく一年となった。感染対策を十分に配慮しながら活動を継続した。新しく zoom 配信にもチャレンジした。そのような中で、コロナ緊急支援ということで新しく個別の家族体験ができる居場所の提供、「リバちい」事業が始まった。

ユース事業

- ・ユースペースは放課後の中高生の居場所として開催。ゲーム、バンド、勉強、心の相談など自由に参加。中高生にとって大切な居場所となった。
- ・2014 年から行われている「あなたは高価で尊い存在」がテーマの自己肯定感を高める出張授業を、松戸市立牧野原中学校の計 1 校で行った。アンケートによると、授業が始まる前は「自分のことが嫌い」という生徒がほとんどだったが、授業の終わりには「自分のことを大切だと思える」という生徒が増えた。
- ・ユースペースで育った高大生数名が、松戸市中高生支援事業ゲットユアドリームでファシリテーターとして活躍、学習支援事業でのボランティアスタッフとして活躍した。
- ・令和 2 年 4・5 月は、新型コロナウィルスの感染拡大防止に伴い、ユースペースの開催を中止した。

ゲットユアドリーム事業・松戸市委託事業

- ・ゲットユアドリームは、松戸市中高生支援事業として委託された。
- ・4 回のゲットユアドリーム（当初 6 回の予定が 2 回は新型コロナウィルス感染拡大防止により開催中止）で、計 463 名（根木内中：77 名・第三中：171 名・旭町中 78 名・新松戸南中：137 名）の生徒が参加、計 39 名（根木内中：8 名・第三中：12 名・旭町中 7 名・新松戸南中：12 名）、延べ人数（重複あり）の講師の方々にお話しいただき、様々な価値観や職業観に触れ、将来について考える場を提供できた。第三中学校の生徒からは講師の方々それぞれに感想と感謝の文章をいただいた。今年度、子どもわかもの課委託事業として新たに 2 校（第三中学校・牧野原中学校）が開催の運びとなったが、1 校は開催中止（牧野原中学校）。

※今回特にコロナ感染対策の中だったため、1 教室に 1 講師で 10 数名の生徒たちが講師の話を聞く環境は適応できるとの学校側の判断で開催できた。但し、顔と顔を突き合わせるワークショップは厳しいとの学校側の判断により、第三中、旭町中、新松戸南中ではワークショップは行われなかった。

- ・今回も学校と連携したことにより、より多くの中学生たちに将来について考える機会を

提供することができ、ほとんどの生徒がこれまでより将来について考えることができたと回答した。

子どもの学習支援事業・松戸市委託事業

<学習面について>

今年度は新型コロナウィルスの影響で6月からのスタートとなった。私たちも新年度を迎えて、生徒がいない状況を初めて体験し、利用者・保護者・スタッフともども、大きく戸惑った中でのスタートとなった。休校期間中は月に2～3回、利用者・保護者に家での様子を聞いたり、ご家庭を訪問したりして、コミュニケーションが途絶えることのないよう留意し、その上で勉強面のアドバイスも行った。

その結果、事業再開後多くの生徒が今まで通り教室に通ってくれ、複数の生徒が「毎日来てもいいか」（もちろん、参加コース以外の日は自習中心になりますが）と申し出てくれた。秋口になると、受験のストレスで休みがちになる生徒が増える中、今年はゼロだった。コロナ禍で多くの学校・地域行事・習い事の行事が中止になり、普段あった多様な選択肢がほぼなくなってしまったので、学習支援や居場所が利用者によりどころとなっている、と強く感じた。

また、再開後保護者との継続面談をした中でも、事業休止期間中のスタッフの対応を評価していただき、保護者自身も心を開きいつもより具体的な話を聞くことができた。

夏と冬に行っていた勉強合宿等の行事は、会場としての実施はせず、代替案として「受験生限定」「時間短縮」といった対応で、3密を避け規模を大幅に縮小して実施した。

新しい試みとしては、松戸市在住で元N G O職員の方を招き「キャリアデザイン」を学ぶ場を提供した。6月・7月・9月にラオスに駐在した経験をもとに話ををしていただき、利用者たちにも大きな刺激になった。

受験についても、今年は前後期制がなくなってから初めての実施だったが、全員が乗り越え無事に合格することができた。

解法やテクニック重視の指導ではなく、自分から質問する・自分で調べ、考えるなど問題解決の方法を伝えることに重点を置くというスタンスが徹底されてきており、新松戸の文化として定着しつつある。

<居場所づくり>

毎回休憩時間に、一人一人が安心できる場所となるためのルールを必ず読み上げ、利用者に守ってもらう取り組みを継続実施。生徒自らが読み上げてくれる機会も昨年度より増えて、生徒が居場所を作る主体になるよいきっかけとなった。イベントとしては、12月クリスマス会を実施したが、人数制限をしなければならないのが悔やまれた。

＜その他の取り組み＞

SNS、インターネット、ゲーム、コミュニケーションスキルや就職について等々、様々な分野に関して、昨年に引き続き自立に役立つ情報を休憩時間に提供してきた。

2学期に入って、受験を控えている生徒の中に情緒的に不安定になる生徒が本年はゼロだったのが印象的だった。一人一人が受け入れられ大切にされる、安心できる居場所作りの効果だと感じている。一方で個別に話を聞くと、いつもは元気いっぱいなのに、家族・学校の人間関係の問題で悩んでいることを話してくれる生徒もいた。「自分と向き合ってくれている」という受容感も大切であると感じた。学校でも、家庭でもない、利害関係のない「サードプレイス」としての役割を果たすことが微力ながらですが果たすことができた。

中高生の居場所づくり事業 青少年プラザ・松戸市委託事業

委託事業として三年目。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため4~5月青少年会館が閉館のため居場所も休止した。6月より居場所の再開、居場所再開に合わせて開催時間も午後3時30分開始に変更、小学生の部と体育館利用が始まる。居場所再開後、多くの小学生が集まり、定着している。和室のスペースは学習の居場所として用いられ、コロナ禍で人間関係が希薄になっている中高生の息抜きの場所としても利用された。

J ボランティア

コロナウイルス感染症拡大のため、毎年行っている被災地支援は中止した。

コロナ禍で大きなイベントやボランティアできる場面は少なかったが、人との繋がりが薄れていく社会の動きを見た学生達が自ら声をあげてオンラインでのボランティアを提案し、主体的に動く姿が見られた。

提供されるボランティアから学生達自ら声をあげて形にしていくことができたことは、学生たちの自信に繋がった。

地域子ども・子育て支援事業・松戸市委託事業

（おやこDE広場旭町）

- ・シニア交流センター3階にある広場として、高齢者との交流の機会を持ち、毎月の読み聞かせ＆誕生会にはシルバー人材センター女性部と有志の方、さらに馬橋西包括支援センターより紹介されたボランティアの方が加わって下さり親子との交流を行った。
- ・夏まつりは松戸市はつらつクラブ連合会の方に、12月のクリスマス会＆誕生会では、馬橋西包括支援センターの方にお手伝いを頂き開催。
- ・敬老感謝会には、シルバー人材センター、はつらつクラブの方々に来ていただき、ゲームや手遊びで一緒に楽しい時間を過ごし、利用者さんに協力して作っていただいたカードを感謝の気持ちを込めてお渡しして喜んで頂いた。
- ・旭町中の夏休みボランティアは、合計10回、30人の生徒さんが参加。初めて、代表の

生徒さん3人と事前打ち合わせを行った。

- ・旭町中ふれあい体験授業は、3クラス73名が参加。中学生にとっては出産、育児について貴重なお話を聞く機会となった。お母さんたちも、「話することで出産の感動を思い返し、また頑張ろうと思えた」、「自分の子が大きくなるとこのようになるんだと将来を想像できて良かった」等の感想が聞かれ、双方にとって有意義な時間となった。
- ・ママパパ学級3日目を広場で2回開催したが、参加者はそれぞれ3組にとどまり、昨年と比べ、かなり減少している。

〈子育てコーディネーター〉

- ・子育てに関する相談業務を行った。言葉が出ない、なかなか歩かない、というような発達に関する相談、離乳食や幼児食について、また夜泣きや排便状況などの相談など子育てに関する様々な相談があり、働くことを希望している方からは保育園入園に関わること、保育園選びについての相談が多くあった。
- ・保健師さんが介入して、発達の通所施設に定期的にお子さんを預けられるようになった方も、時々広場を利用され、コーディネーターやスタッフと話すなど、居場所となっており継続的支援の必要性を改めて感じた。
- ・年度末にはコロナウイルス対策で、突然、広場が閉鎖となり、利用者さんたちからも「ここが閉まっちゃうと困る。明日からの行き場をどうしよう」「外出自粛とかで家に居ると、虐待が増えそうですよね」と心配の声が聞かれた。

子育て支援事業

〈子育てセミナー〉

2020年6月からZoomを取り入れ、現場での参加者も含め人数制限と感染予防対策をして再開した。コロナの中、人との繋がりが更に希薄となり、子育ての不安や悩みを話す場が少なくなってしまい、セミナーのディスカッションが好評だった。

〈リトミック〉

コロナウィルスが蔓延し始めた2月からリトミックをお休みし、感染対策と人数を限定し、Zoom等を取り入れ、8月から再開した。交流を持つことが難しい中、Zoomを通してリトミックやお母さん同士が話す機会を提供できた。

普及啓蒙

前半は、コロナ禍により各事業のFacebookやホームページの更新頻度が下がったが、後半は活動がオンラインを中心に再開され、不定期の更新ではあったが、実施することによりFacebookでは閲覧者数が戻り、ホームページでは逆に閲覧頻度が倍近くにまで増加した。リバчай事業では、説明会、及び見学会をZoomを用いたオンラインで実施し、初の移動し

ながらのオンライン中継となり、参加者の好評を得た。また、リバちい事業ではJワールド初のYouTubeチャンネルも作成し、動画での情報発信を開始した。

TechSoupに登録し、必要なソフトウェアやクラウドサービスを割引価格で使用できるようにし、コスト削減とともに、活動の柔軟性を拡張した。これにより、セキュリティを担保しつつ、遠隔でのボランティアによる書類作成、校閲が容易となった。

リバちい事業

休眠預金等活用における新型コロナウイルス対応緊急助成に申請し、リバちい事業として採択され、独自事業として開始することができ、学校や学童などを通じて利用者にアプローチすることができている。

親御さんのための相談ルーム、及び子どもたちの居場所として当初予定通りに機能し、利用継続者がいて、ちばのWA地域づくり基金といった外部機関からも評価されている。センター開所前から、ボランティアスタッフを確保し、広報活動を実施できて、学校配布のチラシ作成などを滞りなく行うことができ、利用者とボランティアスタッフとの異年齢交流を即時に開始できた。

2事業の実施に関する事項 年度 第13期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の平均人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
① ユース事業	中学生・高校生の居場所の開催	月20回	SRCビル・2F 多目的ホール	2人	延べ： 中学・高校生 ユース(984名)	12
② ゲットユアドリーム事業	様々な職業の人生の先輩から話を聞き、皆で将来について考えるワークショップ。	年6回	松戸市立6中 学校内2校は コロナの影響 で実施なし	20人	中学生(463名)	884
③ 中高生の居場所づくり	中高生の見守りを行い、必要に応じて学習支援や進路相談に応じる。	毎金曜日	青少年会館 (1階ロビー、 三階和室)体育館1回	3人	延べ:(936名)	1,080
④ 子育て支援事業 (リトミック)	子どもが心身共に自立した大人になるための企画・運営(リズム体操など)する。	月2回 不定期	SRCビル 2F 多目的ホール	4人	延べ： 未就園児 30名 子ども達の親を含む ZOOM10名 計 40名	
⑤ 子育て支援事業 (子育てセミナー)	バウンダリーについての講演会や研修会を開催。 カウンセリングを含む。	月2回 木金曜日	SRCビル 2F 及び 3F 多目的ホール	23人	延べ： 松戸市及び近隣の 市民(25名)ZOOM 参加者(32名)	126

⑥ Jボランティア事業	中学・高校、大学生を対象としたボランティア活動。	随時	SRCビル2F オンライン	5人	延べ: 中学生5名・高校生5名 大学生25名(内11名ZOOMでのボランティア参加)	3
⑦ 普及啓発事業	各事業についてのホームページを開設しチラシ配布等により活動内容を紹介する。	随時	SRCビル2F 多目的ホール	2人	不特定多数	6
⑧ おやこDE広場 旭町	乳幼児親子の集いの場所を提供する。	月17回	シニア交流センター内	3人	延べ: 830名	4,471
⑨ 学習支援事業 (松戸市委託事業)	小中学生に勉強を教えるだけでなく、居場所づくりとしての機能をもち、学力向上を通して、自立する力を養う。	月木火金 (中学)週2回 月金 (小学)週2回等	SRCビル2F 多目的ホール	8人	延べ: 1,299名(中学生) 361名(小学生)	9,155
⑩ 子育て支援 コーディネイト	子育ての相談、子育て支援サービスの紹介、子育て支援機関との連携する。	月回	シニア交流センター内	1人	延べ: 松戸市及び近隣の市民(70名)親子で82名	2,235
⑪ 休眠預金事業 (リバচい事業)	困窮家庭の社会的自立に向けて相談や居場所づくりを通じた支援を行う。		新松戸4-263 リバচい内	6人	延べ: 松戸市及び近隣の市民(30名)親子で2名	2,236
⑫ 本会計からの負担	休眠預金事業への助成対象外負担					262

計 20,470千円